参考４

情報発信、意見交換会等の現状
（「平成30年度食品安全委員会運営計画の実施状況の中間報告について（案）」補足資料）

平成３０年１１月２１日
情報・勧告広報課

［ 内容 ］

ページ

1　リスクコミュニケーションの戦略的な実施・・・・・・・・・・・・・・・・　1

2　様々な手段を通じた情報の発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

（参考１）　ファクトシートの更新・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

3　「食品の安全」に関する科学的な知識の普及啓発・・・・・・・・・・・・　4

4　「食品の安全」に関する科学的な知識の普及啓発

　　及び関係機関・団体との連携体制の構築・・・・・・・・・・・・・・・・　5

5　関係機関・団体との連携体制の構築・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6

6　学術団体との連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

１．リスクコミュニケーションの戦略的な実施

重点テーマ

◆デルファイ法により一般消費者の理解が必ずしも十分ではなく、また、専門家に重要であるとされたもの

⇒「リスクアナリシス、食品安全の基本的な考え方」

◆カンピロバクター食中毒が減っていないことから、最新の知見をまとめ、「食品健康影響評価のためのリスクプロファイル（鶏肉等における *Campylobacter jejuni/coli*）」を更新（５月）

⇒「一般消費者の関心の高い食中毒（カンピロバクター食中毒）」

重点対象

◆一般消費者への波及効果を期待

⇒　栄養教諭、家庭科教諭等の学校教育関係者

＜リスコミの主な実施事項（カンピロバクター）＞

（１）直接対話による情報提供
- 「みんなのための食品安全勉強会」（大阪、東京、横浜）
- 「精講」（大阪、東京）
- 報道関係者との意見交換会（一部が新聞、ネット記事に反映）
- 地方公共団体共催意見交換会（学校関係者等にリーフレットを配布・説明）
- 講師派遣依頼対応（全国食肉衛生検査所協議会、学会、自治体による事業者向け研修会等）

（２）Web掲載
- 「鶏肉を安全に調理するために」（リーフレットを掲載し、加熱の徹底と二次汚染防止を注意喚起）
- Facebookによる記事掲載（4回シリーズ）
- 日本栄養士会ウェブサイトでリスクプロファイル紹介、リーフレット掲示

（３）紙媒体による情報提供
- 「鶏肉を安全に調理するために」（リーフレットを各種イベントで配布）
- 雑誌寄稿（食品衛生研究、月刊食品工場長、日本野菜ソムリエ協会等）

2　様々な手段を通じた情報の発信

○　各種メディアを通じた情報発信については、①今年度から発行した年誌を含めた広報誌等の紙媒体、②ホームページ、Facebook、メールマガジン、ブログ及びYouTubeを通じたネット媒体、③意見交換会等を通じた直接対話により実施。特にFacebookについては、機動的な対応も含めた各種記事の配信に傾注

○季刊誌（昨年度まで）

発行月	特集記事	キッズボックス
H29.7	食品中のカフェイン	ジャガイモ
10	フモニシン、ボツリヌス症	ジビエ
H30.1	栄養成分関連添加物に関する食品健康影響評価指針	牛乳
3	無菌充填豆腐	山菜

○年誌（今年度から）

発行月	記事
H30.10	委員挨拶、リスク評価、ファクトシート、主な出来事

○キッズボックス

発行月	記事
H30.7	食品安全委員会とは
8	カンピロバクター
9	食べ物を安全に食べるための考え方
10	食品添加物

○Facebookの記事数・閲覧者数の推移

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末
記事数	157	113	151	190	111
閲覧者数	139,762	411,810	490,246	647,093	282,112

出典：情報・勧告広報課調べ

○Facebookの記事の事例

＜健康被害案件（機動的対応）＞

投稿日	投稿記事	閲覧者	いいね	シェア
9/26	仕出し料理を原因とするウエルシュ菌による食中毒が発生しました	2,507	138	29

＜注意喚起（季節性）＞

9/3	知って防ごう！カンピロバクター食中毒（第4回）	2,301	126	19

＜科学的知識の普及＞

5/17	食品健康影響評価書を引用した週刊誌記事について	7,013	347	68

出典：情報・勧告広報課調べ

○メールマガジン登録者数

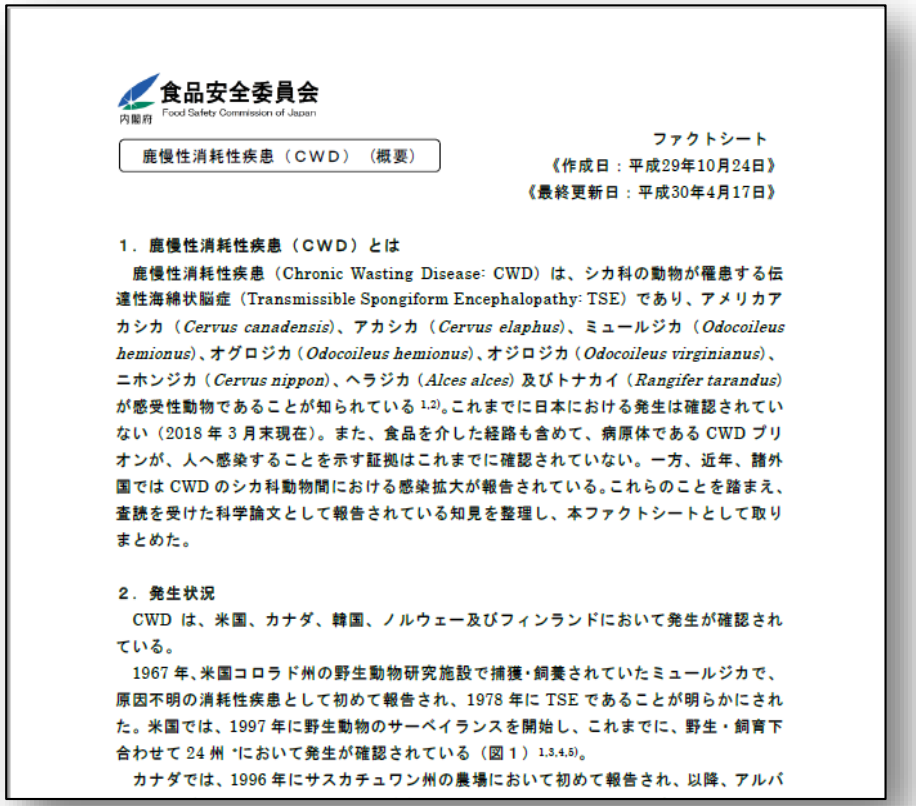
	26年度末	27年度末	28年度末	29年度末	30年9月末
読み物版	377	536	673	746	790
weekly版	9,460	9,593	9,377	9,211	9,174

出典：情報・勧告広報課調べ

（参考１）　ファクトシートの更新

○　食品安全委員会では、主に「自ら評価」の案件候補を選定する過程で、評価案件に至らなかったもののうち、現状の科学的知見を整理して情報発信すべきとされたものについて、ファクトシートを作成し、これを公表
○　平成30年度においては、既存のファクトシートについて、健康被害が発生している（毎年発生する食中毒等）かなどを基に優先順位をつけつつ、最新の科学的知見を整理し計画的に更新作業を進め、鹿慢性消耗性疾患（ＣＷＤ）及びウエルシュ菌のファクトシートを更新

【主なファクトシート】
・鹿慢性消耗性疾患（ＣＷＤ）
・ウエルシュ菌
・アニサキス症
・ボツリヌス症
・A型肝炎
・食品中のカフェイン
・カンピロバクター
・麻痺性貝毒
・ジビエを介した人獣共通感染症
・ラップフィルムから溶出する物質
・ヒスタミン
ほか



食品安全委員会
内閣府 Food Safety Commission of Japan

鹿慢性消耗性疾患（ＣＷＤ）（概要）

ファクトシート
《作成日：平成29年10月24日》
《最終更新日：平成30年4月17日》

1．鹿慢性消耗性疾患（ＣＷＤ）とは

鹿慢性消耗性疾患（Chronic Wasting Disease: CWD）は、シカ科の動物が罹患する伝達性海綿状脳症（Transmissible Spongiform Encephalopathy: TSE）であり、アメリカアカシカ（*Cervus canadensis*）、アカシカ（*Cervus elaphus*）、ミュールジカ（*Odocoileus hemionus*）、オグロジカ（*Odocoileus hemionus*）、オジロジカ（*Odocoileus virginianus*）、ニホンジカ（*Cervus nippon*）、ヘラジカ（*Alces alces*）及びトナカイ（*Rangifer tarandus*）が感受性動物であることが知られている[1,2]。これまでに日本における発生は確認されていない（2018 年 3 月末現在）。また、食品を介した経路も含めて、病原体である CWD プリオンが、人へ感染することを示す証拠はこれまでに確認されていない。一方、近年、諸外国では CWD のシカ科動物間における感染拡大が報告されている。これらのことを踏まえ、査読を受けた科学論文として報告されている知見を整理し、本ファクトシートとして取りまとめた。

2．発生状況

CWD は、米国、カナダ、韓国、ノルウェー及びフィンランドにおいて発生が確認されている。

1967 年、米国コロラド州の野生動物研究施設で捕獲・飼養されていたミュールジカで、原因不明の消耗性疾患として初めて報告され、1978 年に TSE であることが明らかにされた。米国では、1997 年に野生動物のサーベイランスを開始し、これまでに、野生・飼育下合わせて 24 州 *において発生が確認されている（図１）[1,3,4,5]。

カナダでは、1996 年にサスカチュワン州の農場において初めて報告され、以降、アルバ

※　赤字が追加又は修正したもの

3　「食品の安全」に関する科学的な知識の普及啓発

○　広く一般消費者を対象とした食品の安全に関する科学的な基礎知識についての講座「みんなのための食品安全勉強会」を開催。食品関係事業者や研究者を対象に、カンピロバクターのリスクプロファイルをテーマに「精講：食品健康影響評価」を11月に大阪及び東京で開催（予定も含む。）

○　これらは、YouTubeで動画を配信予定

○「みんなのための食品安全勉強会」

開催日	開催地	内容
7/13	大阪府	・食べものと微生物 （講師：食品安全委員会事務局 小平　均　次長） ・知って防ごう食中毒 （講師：食品安全委員会 山本　茂貴　委員）
10/10	東京都	
10/17	神奈川県	

○「みんなのための食品安全勉強会」の主な意見等

・リスクとハザードの関係が理解できた。
・食中毒について基本的なことがわかった
・カンピロバクターについてよく理解できた。
・例を挙げての説明がわかりやすかった。
・グループでの話し合いが参考になった。
・質疑応答にもっと時間をとるべき。

○「精講：食品健康影響評価」

開催日	開催地	内容
11/16	大阪府	・鶏肉等におけるカンピロバクター・ジュジュニ/コリについて （講師：食品安全委員会　山本　茂貴　委員）
11/22	東京都	

○YouTube の配信

「みんなのための食品安全勉強会」（10月）と「精講」（11月）のYouTube配信を準備中

4　「食品の安全」に関する科学的な知識の普及啓発及び関係機関・団体との連携体制の構築

- ○　**学校教育関係者（重点対象）との意見交換会は、地方公共団体との共催による研修として実施**
- ○　**学校教育関係者以外についても、地方公共団体等からの要望に応じた講師派遣を実施**
- ○　**関係府省庁と連携し、意見交換会等を実施**

○学校教育関係者との意見交換会（地方公共団体と共催）

開催日	共催先	内容	対象者
7/17	栃木県	食品添加物、リスクアナリシス	学校教育関係者
7/31	松山市	食中毒、リスクアナリシス	
8/20	名古屋市	食中毒、リスクアナリシス	
8/21	大阪府	食中毒、リスクアナリシス	
10/11	那覇市	食中毒、リスクアナリシス	
10/19	京都府	カフェイン、リスクアナリシス	
11/28	岡山県	食中毒、リスクアナリシス	

○講師派遣

開催日	派遣先	内容	対象者
6/20	神奈川県	食品安全と食品添加物	一般消費者
7/25	富山県	食品安全について	一般消費者
10/24	大阪府	健康食品について	一般消費者
11/8	中央区	鶏肉を安全に食べていただくために	事業者

※地方公共団体に派遣した４件のみ掲載。地方公共団体以外も含めると１５件。

○意見交換会等（関係省庁と連携）

開催日	開催場所	内容	対象者
7/27	東京都	夏休み2018宿題・自由研究大作戦！「知ろう！考えよう！親子で学ぶ、食品中の放射性物質」	児童
8/2	東京都	子ども霞が関見学デー「食品と生活の安全について学ぼう！」	児童
8/3	大阪府	夏休み2018宿題・自由研究大作戦！「知ろう！考えよう！親子で学ぶ、食品中の放射性物質」	児童
8/9	宮城県		
11/12	東京都	食品に関するリスクコミュニケーション「食品中の放射性物質を巡る震災からの歩みーこれまでを知り、明日の消費行動を考えるー」	一般消費者
11/15	静岡県		
11/22	大阪府		
11/28	沖縄県		

5　関係機関・団体との連携体制の構築

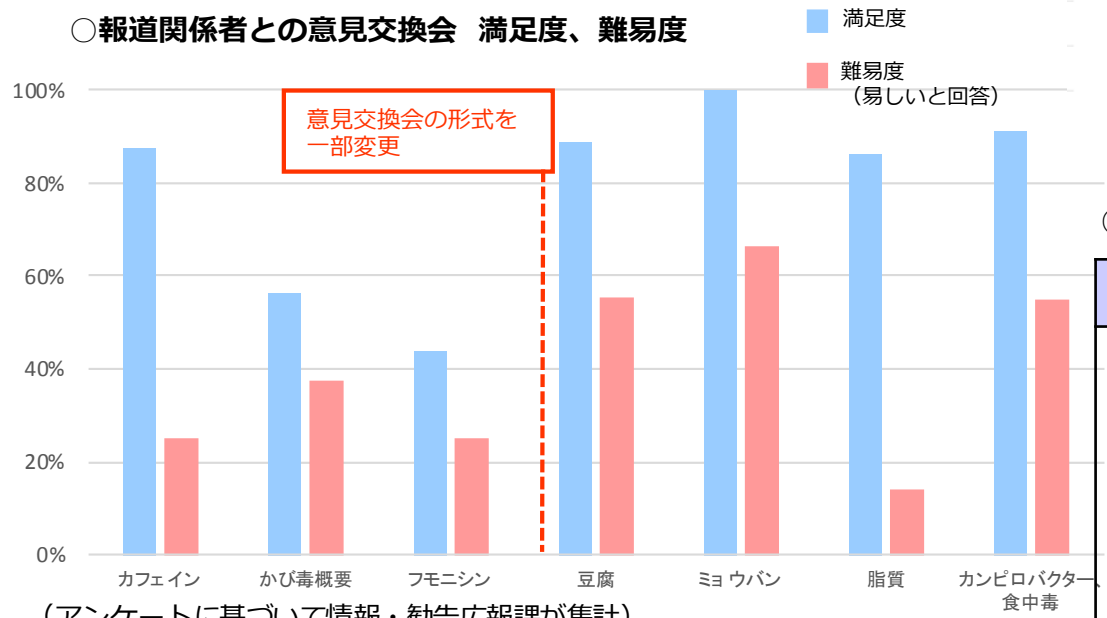
○　マスコミ関係者に対する食品安全に係る知識の普及活動は、「報道関係者との意見交換会」により対応。平成30年度は、社会的影響を考慮してテーマと開催時期を設定。

○　関係職能団体との連携強化を図る観点から、（公社）日本栄養士会や（一財）食品産業センターと意見交換を実施。例えば、日本栄養士会については、食品安全委員会からの講師派遣対応、消費者向け勉強会の案内情報を団体ウェブサイトを通じて提供

○報道関係者との意見交換会　開催実績（直近５回）

開催月	テーマ
H29. 5	カフェイン
11	フモニシン
H30. 3	無菌充填豆腐とミョウバン
5	脂質
7	カンピロバクターを中心とした食中毒

○報道関係者との意見交換会　満足度、難易度



（アンケートに基づいて情報・勧告広報課が集計）

○日本栄養士会ウェブサイトでの情報提供

○食品産業センターとの意見交換会を実施

開催日	テーマ
10/29	食品について科学的根拠なく不安を抱かせる報道への対応について意見交換 ⇩ 流通事業者向けに、食安委と食産センターが、食品の安全に関する科学的知識の情報提供について連携して意見交換会を開催できないか検討中。

6　学術団体との連携

○　学術関係者との一層の連携強化を図るため、平成29年度から、
①　ブース展示をする学会においては、食品安全委員会の委員の講演やポスター発表をセットで実施するとともに、
②　学会の参加者が食品安全委員会のブース展示に興味を持てるよう、一律の展示内容ではなく、学会ごとの専門性に合わせた展示を実施

○平成30年度　学会へのブース展示等状況

学会名	委員等の講演	展示状況
日本栄養改善学会学術総会 （9/4,5）	佐藤委員長 講演「塩と健康をめぐって」	・加熱時に生じるアクリルアミドや、食品中のヒ素についての評価書を展示。 ・「食品安全」特集号（キッズボックス総集編）、「食べものについて知っておきたいこと」（メールマガジン読み物版総集編）等の読みやすい冊子を中心に配布。
日本食品微生物学会学術総会 （9/27,28）	山本委員 講演「食品健康影響評価のためのリスクプロファイル～鶏肉等における*Campylobacter jejuni/coli*～」	・食中毒関連の評価書を中心に展示。 ・カンピロバクターのリスクプロファイルは、全体版を設置すると共に概要版を配布。
Asian Pacific Prion Symposium （10/4, 5）	事務局職員 講演「FSCJ's Fact Sheet on CWD」（食品安全委員会のCWDに関するファクトシートについて）	・プリオン評価書、CWDのファクトシートを設置。 ・英文ジャーナル「Food Safety」を中心に配布。
日本食品衛生学会学術講演会 （11/15,16）	佐藤委員長 講演「食品安全委員会における新しい食品健康影響評価の流れ」	・報告書「新たな時代に対応した評価技術の検討 -BMD法の更なる活用に向けて-」等を設置。 ・カンピロバクターのリスクプロファイルは、全体版を設置すると共に概要版を配布。

日本栄養改善学会学術総会

日本食品微生物学会

Asian Pacific Prion Symposium 2018